令和４年度事業報告

（令和４年５月１日～令和５年４月 30 日）

I. 学術講演会等の開催

1.　第 64 回学術講演会

日　　時：　令和４年７月 14 日（木）～7 月 16 日（土）

（WEB 開催：～7 月 31 日（日）

会　　場：　久留米シティプラザ

WEB 併催

参加者数：　2,443 名（会場参加者　656 名）

演題数：　一般演題口演（日本語）：51

英語口演：15

一般演題ポスター（日本語）：328

高得点演題口演(日本語)：29

病理症例検討会採用：11

COVID-19 の感染対策として、入り口での検温、手指消毒などを行い、会場と WEB の併用で開催した。シンポジウム、特別講演、招請講演、会長講演、理事長講演、ガイドラインコンセンサスミーティング、婦人科悪性腫瘍 総合入力システムセミナー、EAGOT session、感染対策講習会、医療倫理講習会、基調講演ハンズオンセミナー、ワークショップ、教育プログラム、病理症例検討会、指導医講習会を行った。市民公開講座は『もっと知って欲しい子宮頸がんのこと』と題し、自見はなこ参議院議員に講演いただき会場で開催した。

2.　第９回研修会

日　　時：　令和４年 12 月１日(木)～12 月 13 日(火)

WEB 開催

参加者数：　944 名

教育プログラム B（B-1　悪性疾患患者の QOL・サポート、B-2　がんの精神的社会的側面、B-3　子宮頸癌・外陰がんの手術、B-4　子宮体がんの薬物療法、B-5　卵巣がん・卵管がん・腹膜がんの予防・診断、B-6　絨毛性疾患の診断・治療、トピックス　コルポスコープ）をオンデマンド配信で実施した。

3.　内視鏡手術手技研修会

本邦における婦人科腫瘍医の内視鏡手術手技のスキル向上と均霑化を目指し全国各地で広く開催できるように研修会内容、テキスト、ハンズオンセミナーを一体化した研修会を実施してきたが、COVID-19 の感染拡大により、開催を中止している。本年度は、第 64 回学術講演会の最中にハンズオンセミナーのみを開催した。講義は、e-learning で受講したもらい、専門医取得、専門医更新の必須項目とした。

4. コルポスコピー研修会

コルポスコピーや下部女性生殖器についての知識に関する教育普及を行い 、子宮頸部腫瘍に精通した医師を育成するために、年 1 回のコルポスコピー研修会を開催する。初回となる本年は、子宮頸部病理・コルポスコピー小委員会(JSGO-CCCP)の発足時委員が講師を担当した。

日　　時：　令和 5 年 2 月 26 日（日）

会　　場：　東京慈恵会医科大学 2 号館講堂

参加者　：　73 名

プログラム

コルポ検査に関連する医師・患者教育・修練方法

HPV 検査の導入を考えた子宮頸がん検診とコルポ診について

妊娠中のコルポ検査とその対処法

コルポスコピーの基礎とピットフォール

子宮頸癌の病理診断と細胞診

コルポスコピー所見の付け方と検診後のマネージメント

5. WEB セミナーの実施

昨年に引き続き月 1 回程度の教育委員会 WEB セミナーを、ZOOM ウェビナーを利用し実施した。ガイドライン、手術、病理、臨床研究、薬物療法、画像、放射線、がんと生殖のカテゴリーで 1 時間、1 人ないし 2 人の講師にライブ配信した。また、ライブ配信した講演を e-academy として HP に掲載し見逃した会員、再度見直したい会員が視聴できるようにした。

II. 機関誌及び論文図書等の発行

1. 機関誌「日本婦人科腫瘍学会雑誌」の発刊について

発行年月日	巻	号	発行部数
令和 4 和年 6 月 25 日	40	3	4,400 部
令和 4 年 10 月 25 日	40	4	4,350 部
令和 5 年 1 月 25 日	41	1	オンラインジャーナル
令和 5 年 4 月 25 日	41	2	オンラインジャーナル

2. ガイドラインの発行について

令和 2 年度より改訂を行っていた「子宮頸癌治療ガイドライン 2022 年版」を令和 4 年 7 月に発刊した。

令和 5 年 7 月の発刊予定の「子宮体がん治療ガイドライン 2023 年版」の改訂作業を昨年に引き続き行い、7 月の学術講演会でのコンセンサスミーティング、評価委員の評価、パブリックコメントの募集を行った。

「患者さんとご家族のための子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん治療ガイドライン第 3 版」の改訂も、令和 5 年 7 月の発刊予定で進め、編集委員での検討後、執筆者へ校正依頼を行っ

た。

3. 英文誌について

令和元年にオフィシャルジャーナルとなったJournal of Gynecologic Oncology（JGO）の編集協力を行い、年間6回（奇数月）に発刊（オンラインジャーナル）を行った。

III. 婦人科腫瘍学に関する調査研究及び教育の助成

1. 野澤記念研究助成

令和 5 年度の研究助成対象者を研究助成選考小委員会で審査をした結果を理事会で報告し、対象者を決定した。応募者は6名であり、2名に助成する。

＜助成対象者＞

① タイトル：LSRが促進する卵巣癌の脂質代謝経路をメタボローム解析で探索し、増殖促進効果を有する脂質分子を同定する
所属：大阪大学大学院医学研究科　産科学婦人科学教室
氏名：平松　宏祐

② タイトル：p53疑集体形成に着目したp53変異卵巣癌の新規治療戦略の確立
所属：和歌山県立医科大学　産婦人科
氏名：岩橋　尚幸

IV. 婦人科腫瘍専門医及び医療機関の認定

1. 専門医の認定

専門医制度規則・細則に基づき、専門医試験を実施した。申請の対象者は、当会が認定した指定修練施設において3年以上の修練を行ったものである。試験は令和4年12月18日(日)に筆記試験100問と口頭試問（面接官2名）で行われた。COVID-19感染対策として、受験者は1机1名として間隔をとり、入り口での検温と手指消毒、面接会場のドアノブの消毒を行った。試験終了後、同日に資格認定委員会を開催し、申請者に対する合否の判定が行われた。

受験者83名　合格者72名　不合格者11名

2. 専門医の更新・再認定

専門医制度規則・細則に基づき、更新の申請を提出した198名と再申請2名に対し、令和5年2月14日(火)に資格認定委員会を開催し、審査を行った。

187名が専門医資格更新、2名が再認定となり、9名は更新の要件を満たしていないため、1年間の更新保留、要件を満たさず次年度も要件を満たせない 2 名は資格停止となった。また、更新申請の提出がなかった8名は専門医資格を停止とした。

3. 指定修練施設の認定

専門医制度規則･指定修練施設認定施行細則に基づき、申請書類を提出した12施設に対し、令和4年6月20日(月)に指定修練施設認定委員会を開催し、審査を行った。2施設をA施設認定、9施設をB施設認定、1施設を症例数の不足により認定不可とした。また、更新に

関して、25 施設から更新申請があり、21 施設が A 施設、4 施設を B 施設として条件を満たしていたため更新を認めた。年次報告により 1 施設が専門医不在のため認定取り消しとなった。

4. 専門医試験を合格し認定を受けた 72 名、更新 187 名、再認定 2 名に対し、認定証の交付を行い、登録の手続きをした。また、当会 HP の専門医一覧に公開をした。

5. 指導医の認定

専門医制度規則・細則に基づき、令和 5 年 2 月 14 日(火)に認定審査を行った。申請書類を提出した 49 名に対し審査を行い、49 名を合格とし、認定証の交付を行った。指導医更新は、申請をした 18 名のうち 16 名の更新を認め論文の提出がなかった 1 名を保留、昨年保留であった 1 名は、論文が条件を満たしていないため資格停止とした。申請がなかった３名の資格を停止とした。

6. 試験問題の作成

令和元年に作成した専門医制度規則試験問題作成施行細則に則り、試験問題作成委員を選出し、問題作成を依頼。WEB 会議にて問題選定と修正を郵送と WEB 会議で行い、問題を事務局から出すことを禁じられている段階からは、委員長、副委員長が事務局に行き、問題の修正と確認を行った。試験終了後に、作成方法に問題がなかったかをモニタリングし、監事に報告した。

V. 国際および国内関係学術団体との連絡及び提携

【国際渉外事業】

1. ASGO_2025（The 9th Biennial Meeting）の誘致選挙が行われ、小林陽一先生（杏林大学）が選出された。第 67 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会と併催で行う。
2. KSGO 38th Spring Meeting（2023/4/28-29　韓国 慶州市）発表者の公募を行った。9 名の応募があり、6 名の先生を選考した。
3. 2027 年以降の IGCS（ International Gynecologic Cancer Society）の Annual Global Meeting 誘致を積極的に行うことを決定した。

【国内渉外事業】

1. 令和 6 年度診療報酬改定に関して、外保連・内保連、関連学会と連携、協力を行った。
2. 令和 3 年度に発足した DB 共通プラットフォーム作成検討委員会はシステムがテスト運用に入ったため、運用委員会となり、引き続き日本産科婦人科学会、日本産科婦人科内視鏡学会と協議を行いながら本運用を目指して活動をおこなった。HP の開設、試験運用参加施設の募集を行った。
3. 予防接種専門協議会の会議に参加し、会員への情報発信を行っている。

VI. その他、本会の目的を達成するために必要な事業

【総務委員会】

1. 本会 25 周年記念事業として、HP 内に記念事業のページを開設した。記念座談会を開催し

内容をHPに掲載し日本婦人科腫瘍学会の歴史（年表等）も掲載した。また、25周年記念事業として、記念書籍発刊のために委員会を開催し、書籍の内容や執筆者の選定に関しての協議を行った。

2. 令和 3 年に朝日新聞デジタルに掲載した片渕秀隆前理事長とタレントの SHELLY 氏の対談記事を多くの市民に見てもらうための広報活動を行った。
3. 令和5年度の名誉会員・功労会員の推戴の件、第68回学術集会集会長の選出の件、会員の資格喪失者の件について協議を行った。
4. 本会退会者に退会の理由等を確認することで、さらなる会員増等を目的として、退会者を対象としたアンケート調査を企画・立案した。

【利益相反小委員会】

1. 理事長・副理事長・理事・監事)、学術集会会長、次期学術集会会長、次次期学術集会会長、各種委員会委員長、各種ワーキンググループ委員長、社会保険委員、倫理委員、ガイドライン委員、利益相反委員、編集委員に対して、令和4年1月～12月の自己申告書の提出を依頼した。
2. 令和3年1月～12月の自己申告書の確認を行った。
3. Q&Aの改訂作業を行った。

【学術委員会】

1. 学術講演会事後評価委員会を設置し、第 64 回学術講演会に関して参加者にアンケートを実施。アンケート回答に関して解析し理事会に報告した。
2. 第65回学術講演会のプログラム委員会を発足し、プログラムの協議を行った。
3. 第64回学術講演会での病理症例検討会の反省と、65回への引継ぎを行った。また、コメンテーターの選出を行い、レビュー会議を実施した。

【教育委員会】

1. 教育プログラムの内容検討、第9回研修会を実施した。
2. 婦人科腫瘍専門医修練カリキュラムの改訂を行うための協議を行い、担当者の選定した。
3. 令和2年度より開始したWEBセミナーを毎月1～2回開催した。開催したWEBセミナーの動画をe-academyとしてHP上に掲載をした。
4. WEBセミナーでのTumor Boardの開催を検討した。

【手術手技研修小委員会】

1. 第64回学術講演会でハンズオンセミナーを実施した。感染対策のため、参加者を少数に絞った。
2. 第65回学術講演会でのハンズオンセミナーの実施内容を検討した。
3. 開腹手術のライブラリー、手術見学(実地)、バーチャル手術見学、遠隔指導やLive surgeryを行う場合の、倫理指針を作成する必要性の検討などを協議した。

【子宮頸部病理・コルポスコピー小委員会】

1. 令和4年6月16日（木）に第1回委員会を開催。コルポスコピスとの質の向上、次世代指導者の育成、研修会プログラムの作成と開催、教育コンテンツを作成するなどの委員会

の目的が確認された。

2. 若手委員の募集、選考を行った。

3. 令和5年2月26日（日）に第1回コルポスコピーセミナーを開催した。

【編集委員会】

1. 和文誌の発刊を行った。41 巻からはオンラインジャーナルのみとして、紙媒体の発行を取りやめた。

2. 機関誌の査読員へのインセンティブ付与の一環として和文誌および英文誌（Journal of Gynecologic Oncology）の Best Reviewer Award の創設し、和文誌の Best Reviewer Award の創設に関して協議を行った。

3. 英文誌（JGO）への協力の方法、会員への投稿数を増加させる方法の検討を行った。

【倫理委員会】

1. 教育委員会より Tumor Board 実施に際して患者さんの同意書に関しての倫理的側面の意見を求められた。

【社会保険委員会】

1. 令和6年度診療報酬改定に関して関連学会と協議を行い、センチネルリンパ節生検術（子宮悪性腫瘍手術）とセンチネルリンパ節生検術（女子外性器悪性腫瘍）を記載学会として、子宮悪性腫瘍手術（広汎切除）（ロボット支援）、骨盤内臓全摘術（腹腔鏡下）、骨盤内臓全摘術（ロボット支援）、腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術の進行期適用拡大並びに傍大動脈リンパ節郭清時の増点、子宮付属器腫瘍切除術（腹腔鏡下）、子宮付属器腫瘍切除術（開腹）、ロボット支援リンパ節群郭清術（傍大動脈）適応拡大　子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る）の要件改定と増点を連名学会として、それぞれ提出した。

【広報委員会】

1. WEB セミナーのオンデマンド閲覧ページ（JSGO E-academy）を開始した。

2. JSGO E-academy にアクセスしやすいようにホームページ上の場所を改訂した。

3. 患者教育のための教育アニメーション動画の広報、2次使用の許諾を行った。また、閲覧に関しての動向も注視している。

【ガイドライン委員会】

1. 委員会開催

① 令和5年3月6日(月)にガイドライン委員会を行い、今後のガイドライン発刊に関して協議を行った。

② 子宮頸癌治療ガイドライン 2022 年版改訂委員会

・令和4年5月22日(日)外部委員による投票

③ 子宮体がん治療ガイドライン 2023 年版改訂委員会

・令和4年6月29日(水)全体会議

・令和4年7月12日(火) コアメンバー会議

・令和4年10月5日(水)コアメンバー会議

・令和5年1月10日(火)コアメンバー会議

・令和5年1月13日(金)コアメンバー会議
・令和5年4月28日(金)・29日(土)最終会議＋ガイドライン委員会委員と副委員長のCQ投票
・令和5年4月29日(土)外部委員のCQ投票

④ 患者さんとご家族のための子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん治療ガイドラインコアメンバー会議を令和5年2月9日(木)開き、ドラフトの検討と発刊までのスケジュールの確認を行った。

⑤ 卵巣がん・卵管癌・腹膜癌治療ガイドライン2025年版の改訂を開始するため、副委員長の選任を行った。

2. 論文の執筆

① Sentinel node navigation surgery in cervical cancer: a systematic review and metaanalysis.
Chiyoda T, Yoshihara K, Kagabu M, Nagase S, Katabuchi H, Mikami M, Tabata T, Hirashima Y, Kobayashi Y, Kaneuchi M, Tokunaga H, Baba T.
Int J Clin Oncol. 2022 Aug;27(8):1247-1255. doi: 10.1007/s10147-022-02178-w. Epub 2022 May 25.PMID: 35612720

② Impact of adjuvant chemotherapy on the overall survival of patients with resectable bulky small cell neuroendocrine cervical cancer: a JSGO-JSOG joint study.
Seino M, Nagase S, Ohta T, Yamagami W, Ebina Y, Kobayashi Y, Tabata T, Kaneuchi M, Enomoto T, Mikami M.
J Gynecol Oncol. 2023 Jan;34(1):e4. doi: 10.3802/jgo.2023.34.e4

③ Effects of a fertility-sparing re-treatment for recurrent atypical endometrial hyperplasia and endometrial cancer: a systematic literature review.
Murakami I, Machida H, Morisada T, Terao Y, Tabata T, Mikami M, Hirashima Y, Kobayashi Y, Baba T, Nagase S.
Gynecol Oncol. 2023 Mar 6. doi: 10.3802/jgo.2023.34.e49.

【がんゲノム医療、HBOC診療の適正化に関するワーキンググループ】
婦人科癌患者に対する遺伝医学的対応、HRD検査、RRSO等について全国規模の研究を行う目的に、2023 年度日本産科婦人科学会専門委員会公募小委員会へ申請を行い、婦人科腫瘍委員会の小委員会として認められた。2022年12月26日に第2回WGを開催し、上記研究計画について議論を行なった。まずは日産婦の専攻医指導施設または婦人科腫瘍登録施設に対するアンケート調査を計画している。

【婦人科腫瘍診療におけるCOVID19感染対策と実態調査に関するワーキンググループ】
COVID19による第7波、8波の影響を調べるため、2023年1月20日から3月28日の期間に婦人科腫瘍診療の実態調査アンケートを実施し、修練施設 74 施設（25.6%）から回答を得

た。
【卵巣がんに対する鏡視下手術の保険収載に向けたワーキンググループ】
卵巣がんに対する腹腔鏡下手術の保健収載に向けた先進医療「腹腔鏡下卵巣癌・卵管癌・腹膜癌根治術に関する臨床試験」の研究名で、プロトコール、説明同意文書作成を行った（5月24日大分大学倫理委員会申請予定)。
【若手ワーキンググループ】
今後の学会の在り方（専門医制度、女性医師の登用、国際学会との関係性）と発展に若手の意見を反映していくために発足。委員の選定を地域や性別なども考慮に入れて行い、第1回委員会を令和5年3月28日（火）に行った。令和6年1月下旬ごろにウインターセミナーを計画。
【婦人科医以外の会員増加に関するワーキンググループ】
本会の事業は婦人科医だけでは行っていくことができないため、病理医、放射線医、腫瘍内科医の会員を増やすためにどのような施策を行えばよいかを考える。令和 4 年度は、婦人科以外の会員、非会員に専門分野ごとにアンケートを実施した。

令和4年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため作成しておりません。

令和5年7月
公益社団法人日本婦人科腫瘍学会